令和元年度

授業創造プラン

日野市立仲田小学校

1　方策の柱

基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上

○ 授業の始め・終わりの時間の厳守や授業規律の確立

○ 全ての児童が共に「学ぶ力」を高め、友達と協力して課題を解決する、主体的・協働的な学びを取り入れた学習活動の工夫

○ 「東京ベーシック・ドリル」「なかだドリル」などを活用した基礎的・基本的な事項の徹底

○ ガイドラインに基づく習熟度別指導による、算数科の習熟度に応じた指導・学習内容の工夫

○ ４～６年生で実施する各学力調査の分析結果に基づく、授業改善プランの策定・実施

○ ＵＤ化の環境・授業づくりを推進し、全ての子供が参加でき、命の大切さを実感しながら理解・習得・活用できる学力の育成

２　具体的な方策・取組

（１）国語科の授業創造プラン

①「話し合う」「発表する」活動を重視する。

・伝え合うことの楽しさや必要性を感じられるように計画し、個→ペア・グループ→全体（スピーチ・発表会・ディベート・パネルディスカッションなど）へと話し合いの範囲を広げる。

・少人数の話し合いを多く取り入れることで、思いを伝えたり内容を聞き取ったりする指導を行い、全体の前での話し方を定着できるようにスピーチや発表の機会を多く取り入れていく。

・話し合い活動の場面では、自分の意見を先に書いてから話し合いを始めるなど、自分の考えをしっかりもち、話し合いにすすんで参加するように指導を徹底する。

・「話し合う」「発表する」活動は、国語科で系統的に学習するとともに、全教科・領域の学習活動の中で意識的に取り入れ、慣れさせる。

・日常的に自分の考えとその理由・根拠などを伝える活動を取り入れ、相手意識をもって、論理的な話し方を身に付けさせていく。

・話し合いや発表の話型を示したり手本を見せたりすることで、多くの児童に活動の見通しをもたせる。

・市の「プレゼンテーション大会」などの機会を積極的に活用し、児童の表現力を伸ばしていく。

・日常的に話し合いの場面を取り入れ、話すことに自信をもたせていく。

・日常的に音読やスピーチ活動などに取り組み、話し方や聞き方についての力を育てる。

②言葉の学習の充実を図る。

・学年をさかのぼって言語についての知識・理解を深められるように、教室に辞書を常備する。

・日常生活の中でも辞書を活用し、分からない言葉を調べたり、説明したりする活動を意図的に取り入れ、語感を育て、語彙を増やす。

・文章の暗唱をしたり、漢字指導の中で熟語を使った短文を作ったりして語彙を豊かにする。

・漢字やカタカナは、ドリル、小テスト、プリントなどを活用し、繰り返しの練習を重ねる。また、児童全員が合格点を取るまで直させたり再テストをしたりしていく。

・言葉の意味調べ、教材で扱った言葉や新出漢字を使った短文作りをさせるなどして、言語についての興味・関心を高めるとともに、語彙や文法の理解を深めていく。

・新出漢字や初めてのひらがな・カタカナの学習では、毎日の家庭学習の中で、家庭と連携を取りながら繰り返し練習をして確実に身に付けさせるようにする。

・授業での言葉集めなどを通して、楽しく文字を用いられるようにする。

・ローマ字の学習については、パソコンを活用することを通して練習の時間を取り、定着させていく。

・漢字の成り立ちや意味、似ている漢字や同じ部首をもつ漢字など関連付けながら指導することで、興味をもたせていく。

・漢字検定を学校内で実施することにより、漢字学習への関心・意欲を高め漢字に対する能力を高める。

③読書の習慣を付け、読書量を増やす。

・読み聞かせ、本の紹介、ブックトーク、ビブリオバトルなどの読書指導を通して、本への興味を促し、すすんで読書をしたいという意欲と文章が読める力を育てていく。

・朝の「チャレンジタイム」に朝読書の時間を取り入れ、読書の習慣を身に付けさせる。

・様々な分野の本の紹介を行ったり、読書貯金を行ったりして、たくさんの本を読む環境をつくる。

・図書室を活用し、自分が興味をもっている分野だけでなく、普段手に取らないような本に触れさせる機会を意図的にもたせていく。

・春と秋に読書週間を設定し、読み聞かせや本の紹介、図書委員会による本の紹介・読書郵便などの活動

を行う。また、「親子読書」の取組を行い、家庭での読書の習慣を身に付けるための啓発を行う。

・ＰＴＡに協力を呼び掛け、朝の時間帯に保護者による読み聞かせを定期的に行い、本への関心を高める。

④「書く力」を高める。

・表現の仕方、順序を意識した文章の書き方を指導するとともに、視写、作文、日記などを取り入れ、経験したことや考えたことを文章に表していく。

・文章を書く機会を多く設け、短文から長文へ、作文の構成メモから作文に書かせるなど、段階的な指導を行う。

・書く力を高めるため、目的に応じて表やグラフなどの資料をもとに、自分の考えを書く活動を取り入れる。

・短文作りや授業で共通体験したことを文章に表す学習の機会を増やし、書くことに慣れさせる。

・作文指導では、助詞の使い方や、語と語のつながりを考えて、文章を組み立てられる指導を行う。また、必要に応じて事前に例文やヒントなどモデルを多く掲示し、書く内容や順序を考えやすくし、見通しをもって取り組めるようにする。

・全教科・領域において、学習記録や感想を記述して、文章に表す機会をできるだけ多く設ける。

・日記を継続的に書く習慣を付けさせる。短い言葉でメモを書き、伝えたいことの中心が伝わるように整理して書かせる。

⑤「読む力」を高める。

・特に説明文において、どの学年でも児童の理解の過程を重視した授業を構造化し、自分で文章を読み取る力を付ける。

①一文ごとの理解　→　②形式段落ごとの理解　→　③意味段落ごとの理解　→　④全文を通しての理解　→　⑤自分の言葉で理解したことを表現する　→　⑥理解したことを友達と交流して学習を深める

・物語文では、登場人物の様子や気持ち・場面の様子などを動作化や役割演技・吹き出し作成・場面絵作成など視覚化・言語化しながら楽しんで読むこと、読んだことをもとに音読の工夫や劇化なども取り入れることで読みを深めていく。

・文章の内容や図、表などから必要な情報を正確に選び出す学習の充実を図っていく。必要とされることを明確に言葉、簡単な文章にして考えるなど、問題解決の過程を細かく分けて指導していく。

⑥「聞く力」を高める。

・話を聞くときの態度、話の中心や要点をつかみながら聞く聞き方などを指導していく。

・「聴写」を取り入れたり、大事な言葉を反復して話させたりすることにより、聞く力を向上させる。

・「話す」学習と同時に、「聞く」学習が生まれることを伝え、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめさせる。

・話し手の方を向かせたり、声の大きさを意識させたりし、話したことを相手が聞き取れているか再度確認するなどを通して、日頃から「人の話を聞く」意識を高めていく。

・話を聞く時は、「目・耳・心・最後まで」との合い言葉の全校で統一した指導で、聞く力を育てる。

⑦主体的・対話的で深い学びを実現する。

・主体的に考えさせるために、考えたいと思わせるような発問になるように身近なことをあげたり、児童の実態に応じた学習課題、学習過程を工夫する。

・答えが一つではない発問をし、友達と意見を交流させることで、対話的な学びの場を設定する。

・個人タイム→ペア・グループタイムの協働的な学習を取り入れる。

・一方的な発問ではなく、根拠や理由・他の表現を問うことにより児童の思考力を育てる。

⑧いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・協働的な学習により、一人一人の考え方が認められ、学びを豊かにする。
・様々な読み物や物語の読解から、人物の心情に迫るとともに、人物の生き方や命の大切さに気付かせる。

⑨みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・ペア学習　・トリオ学習　・グループ交流　・学年間交流

⑩地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・他教科で、学んだことを国語で書き、実生活に生かしていく。
・プレゼンテーション大会を通して、地域に伝えていく機会を設ける。

（2）算数科の授業創造プラン

①既習事項をしっかり確認し、基礎・基本の定着、活用を図る。

・レディネステストなどで単元ごとに必要な既習事項の定着を確認する。
・必要に応じて、学年を超え、つまずきの箇所まで立ち戻った学習を行う。
・既習事項を生かして、問題解決型学習を進められるようにする。

②ドリル学習や繰り返し学習により技能の習熟を図る。

・チャレンジタイムでドリルやプリントを使い、繰り返し練習させたり、家庭学習で復習させたりする。
・計算などの繰り返し学習により、効率よく演算ができるようにさせる。
・計算手順を確実に定着させるために、視覚的な効果のあるフラッシュカードやワークシートを活用する。

③数学的な考え方を育てる「学び合い」の学習を重視する。

・言語活動を多く取り入れ、自分の考えを言葉で表現させる。
・ブロックなどの具体物を使った操作で問題文のイメージをもたせる。
・絵や図に表して、問題文のイメージをもたせる。
・児童の考えをもとに学習を展開していけるよう、課題提示や発問を工夫する。
・友達の考え方を聞き、様々な解決方法や表現方法・考え方があることに気付かせる。

④表現力・思考力を育てる学習を重視する。

・板書の工夫と連動したノート指導を大切にする。
・式を活用する過程では、言葉から式、式から言葉で表す活動を大切にする。
・自分の考えや友達の考えをノートに書き、一つの課題について多様な考え方ができるようにする。

⑤ICT・具体物を用いた算数的活動を多く取り入れる。

・インタラクティブスタディなどのコンピュータソフトを活用し、ドリル的な反復学習を行う。
・日常の事象と教材を結び付けることで、算数的活動の楽しさや数学的な処理のよさに気付けるようにする。
・具体物の代わりとなる絵・写真・図表などをパソコン、プロジェクターを使って拡大投影して授業への関心を高め、理解を深める。

⑥作業的・体験的な算数的活動を取り入れる。

・おはじきを並べる・実物を使う・物をつくる・実物を測るなど、実際に作業したり体験したりすることにより、理解を容易にしたり深めたりする。
・日常生活で経験することを学習の中で想起させたり、生活の中で、算数的活動を取り入れたりする。(例「時刻と時間」「長さ」)

⑦一人一人の習熟度に応じた細かな指導、個別指導を充実させる。

・学力向上支援員の活用やリソースルームティーチャーとの連携を大切にし、個に応じた指導を充実させる。
・計算練習では、スモールステップを取り入れたプリントなどを活用する。

・ノート指導やノートの確認などを行い、一人一人の理解度を確かめて、次時の指導に生かす。
・発展的学習などを希望する児童が意欲的に取り組めるよう、ICT を活用する。

⑧東京ベーシック・ドリル、なかだドリルを活用する。

・習熟度別指導が効果的に行われるよう、２年生以上で東京ベーシック・ドリル、なかだドリルを取り入れる。１学期末までに前学年の内容の「診断シート」を実施させ、個別指導が必要な児童には、夏季休業中の補習講座で補充の学習を行う。
・確かな学力の定着を目指し、東京ベーシック・ドリルを活用した放課後補習教室「けやき教室」を２年生以上で実施する。

⑨ガイドラインに基づく、習熟度別学習を充実する。

・３年生以上は、習熟度別担当教諭も含めて、２学級を習熟度別に「補充コース」・「基本コース」・「発展コース」の３クラスに分け、児童の理解や習熟の程度に応じた学習集団を編成する。
・児童の理解や習熟の程度などの状況を把握するために、単元に入る前に実施するレディネステストや過去の調査結果などをもとに、考えられるつまずきに応じて、どの段階に立ち戻って知識・理解や技能の学び直しをする必要があるのかを把握し、反復学習などによる補充的な指導を取り入れる。
・「補充コース」では、ユニバーサルデザイン化を特に重視して、「学習内容に応じた課題や教材・教具などの工夫」「つまずきに応じたきめ細かな段階的指導」などを取り入れていく。具体的には、「刺激量の調整」「場の構造化」「時間の構造化」「スモールステップ化」「視覚化」「共有化」などの工夫をする。
・「基本コース」「発展コース」では、学習内容の理解を一層深めたり広げたりする指導や、更に進んだ学習内容の指導を実施する。一方的に教師が知識を伝えるだけでなく、児童が自主的に学習活動を行える問題解決型学習を取り入れる。

⑩主体的・対話的で深い学びを実現する。

・問題提示の工夫により、主体的に考えさせる。
　数値や場面を隠す・日常の事象を取り上げる・きまりを見付けさせる・誤答を生かすなど。
・個人タイム→グループタイムの協働的な学習を取り入れる。
・一方的な発問ではなく、根拠や理由・他の表現を問うことにより児童の思考力を育てる。

⑪いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・協働的な学習により一人一人の考え方を共有したり大切に取り上げたりして、皆で課題解決の方法を作り上げていく。

⑫みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・個人タイム→グループタイムの協働的な学習を取り入れる。
・毎時間、全員参加の授業を創る。

⑬地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・学校支援ボランティアの協力のもと、週２回放課後補習教室「けやき教室」を実施し、つまずきに立ち戻って既習事項の学び直しをする。
・そろばん教室の講師の方にそろばんの学習を依頼する。
・人口密度の学習では、日野市を始め、近隣の市町村の人口密度を計算する。

(３)社会科の授業創造プラン

①体験を生かした学習を取り入れる。

・地域探検や農家、スーパーマーケット、自動車工場、クリーンセンター、水再生センターなどの身近な施設を見学し、生活と関連させて意欲を高める。
・出前授業の活用やゲストティーチャーを招聘し、専門家から話を聞き、理解を深める。

・地域教材を活用したり、フィールドワークを取り入れたりして、生活科から社会科への移行をスムーズに行う。
・見学をするときの視点を明確にし、記録のとり方について具体的に指導する。
・社会的事象への関心をより高めるために、学習している内容が自分の生活とどの程度、密接にかかわっているかを実感させるような体験的活動を取り入れる。
・授業の中でニュースや時事、外国での出来事などに触れ、児童に興味・関心をもたせる。

②資料活用の技能(社会)を育てる。

・算数科「表とグラフ」の学習内容を活用するなど、他教科との関連を図り、理解を深める。
・教科書や資料集に掲載されている資料を読み取る活動を定期的に取り入れる。
・課題を解決するためには、資料から多くの情報を得ることができ、さらに思考を広げていくことができることを実感させる。
・資料を活用し、調べた内容を、新聞やパワーポイントなどにまとめる。その際、調べた社会的事象を読み手に分かりやすく伝えることができるよう、資料内容を精査したり、提示の仕方を工夫したりするなどして、まとめることができるようにする。
・習得した資料活用の技能を「総合的な学習の時間」の探求活動に生かすことにより、スパイラルに力を高めるようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

・「なぜだろう」と思わせるような導入から学習課題をつくっていくことで、解決したいという気持ちを高め、主体的・対話的に学ぶ授業展開をしていく。その際、仲間で協力して課題を解決することができるよう、協働的な学習形態を取り入れるようにする。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・体験学習でゲストティーチャーに関わる機会や、歴史上の人物の話に触れる機会を増やし、社会的事象の営みには、全てそれに関わる人の「思いや願い」があることをとらえさせる。

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・社会参画意識を高めるために、話し合い活動などの協働的学習を取り入れ、社会にどう関わっていけるか、知恵を出し合う。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・地域に関わるための体験的学習を取り入れ、体験する中で、自分の住む地域「日野」「東京」への愛着を高めていけるようにする。その際、教科書・副読本・地図帳のほか「歩こう調べようふるさと七生」や「新撰組」といった、日野の郷土に関係ある冊子も積極的に活用していく。

(４)理科の授業創造プラン

①体験を生かした学習を取り入れる。

・地域教材を活用したり、フィールドワークを取り入れたりして、生活科から理科への移行をスムーズに行う。
・実験や、導入の事象提示など、科学的な体験を中心に授業を展開していく。
・観察、実験をするときの視点を明確にし、記録や結果は、見たことや聞いたことをそのまま記録することを重点的に指導する。
・科学的事象への関心をより高めるために、学習内容が日常生活に、どのように生かされているのかを指導する。
・日頃から地図や方位、月や太陽の動きなどに興味関心をもたせ、児童に対する問いかけの機会を増やす。
・授業の中でニュースや身の回りの出来事などに触れ、児童に興味・関心をもたせる。

②科学的なものの見方・思考(理科)を育てる。

・問題解決型学習の流れで、各学年で科学的思考を育てていく。３年生では比較しながら調べることで問題を見出す力、４年生では日常生活と関係付けて調べる活動を通して、根拠のある予想や仮説を発想する力、５年生では条件制御をしながら実験計画を立てる力、６年生では多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えを作り出し、表現する力を育むなど、それぞれの学年でこれらの力を重視して指導していく。

・実験や観察に使う器具の正しい使い方や、名前について中学年の段階から指導する。また、教師が師範を示すことで、技能の定着を図る。

・結果では事実を書き、結果から考えられることは考察に書くようにすることで、思考を整理させる。

・実験後の考察を大切にし、友達との話し合いなどで考えを交流する時間を設定し、結果を多面的にとらえ、より妥当な考えを発想できるようにしていく。

・ICT を活用し、学習資料を充実・補完し、児童の関心・意欲を高めるとともに、知識・理解の確実な習得を図る。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

・主体的な学びを実現していくために、児童が自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験に取り組んでいるか、結果を基に考察を行い、より妥当な考えを作り出しているか、自らの学習活動を振り返り、得られた知識や技能を基に新たな問題を発見できているか、新たな視点で自然の事物・現象をとらえているかなどの視点から、授業改善を図る。

・対話的な学びを実現するために、問題の設定や、実験方法の発想、結果の共有や考察の場面で、予め個人で考え、その後根拠を基に意見交換をすることで、妥当な考えが作り出されているのかなどの視点から授業改善を図っていく。

・深い学びを実現するために、理科の「見方・考え方」を働かせながら問題解決の過程を通して学ぶことにより、資質・能力を会得することができているのか、学んだ知識が様々なことにつながっているのか、さらに、獲得した「理科の見方・考え方」を日常生活でも活用できているのかという視点で授業改善を図る。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・仲田小学校周辺の豊かな自然を生かし、生き物への愛着を育んでいく。

・生命領域の学習では、学習の中で生物を愛護し、生命を尊重する態度を養う。

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・ユニバーサルデザインの手法を活用し、みんなが参加できる授業をデザインしていく。

・対話的な学びの視点で授業改善を図り、みんなで知を更新できるようにする。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・仲田の森や多摩川を学習の中で取り上げることで、地域を深く学ぶことができるようにする。

(５)生活科の授業創造プラン

①児童の身近な生活圏を、活動や体験の、場や対象にする。

・児童の身近な生活圏において、本来一体となっている人、社会、自然とかかわりながら、自らの興味・関心に基づいた、具体的な活動や体験を行う。

②児童が、身近な人、社会、自然と、直接かかわる活動を重視する。

・児童が身近な人、社会、自然と直接かかわる活動を通して対象を認識することを重視し、それらと直接かかわる体験活動を多く取り入れる。

③児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習過程にする。

・児童の興味・関心をふまえ、対象との適切な出会いの場を用意するとともに、その思いや願いがさらに膨らむような学習過程を展開していく。

④働きかける対象についての気付きとともに、自分自身に気付くことができるようにする。

・具体的な活動や体験を通して、かかわる対象への気付きが生まれることを大切にするとともに、一人一人が以前の自分より向上し、成長したことに気付くことも大切にしていく。

⑤児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげていく。

・児童が感じ取った事柄を、教師が尋ね返したり問いかけたり共感したりするなどの言葉かけや働きかけをして、児童の発言やしぐさの背景を深く理解するようにする。児童の気付きを言葉に表して、意思の疎通を図ったり、児童の思いに共感したりしていく。

⑥主体的・対話的で深い学びを実現する。

「主体的な学び」

・児童の生活圏である学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接かかわる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取組を促してきた。こうした点に加えて、表現し、伝え合う活動の充実を図ることが必要である。小学校低学年は、自らの学びを直接的に振り返ることは難しく、相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行う中で、自らの学習活動を振り返る。振り返ることで、自分自身の成長や変容について考え、自分自身についてのイメージを深め、自分のよさや可能性に気付いていく。自分自身への気付きや、その成長に気付くことが、「自分はさらに成長していける」という期待や意欲を高めることにつながる。学習活動の成果や過程を表現し、振り返ることで得られた手応えや自信は、自らの学びを新たな活動に生かし、挑戦していこうとする児童の姿を生み出す。こうしたサイクルが「学びに向かう力」を育成するものとして期待することができる。

「対話的な学び」

・身の回りの様々な人々とかかわりながら活動に取り組むことや、伝え合ったり交流したりすることが大切である。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気付きが生まれたり、関係が明らかになったりすることが考えられる。他者との協働や伝え合いや交流する活動は、一人一人の児童の学びを質的に高めることにもつながる。また、双方向性のある活動が行われ、対象とのやりとりをする中で、感じ、考え、気付くなどして、「対話的な学び」が豊かに展開されることが求められる。

「深い学び」

・思いや願いを実現していく過程で、一人一人の児童が自分とのかかわりで対象を捉えていくことが生活科の特質であると言える。「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、様々な気付きを生み出し、新たな学びを獲得するなどの「深い学び」を実現することが求められる。低学年らしい瑞々しい感性により、感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを支援するような、教員のかかわりが求められる。

⑦いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・「いのちの大切さ」を基本とする学習

・体験学習の重視

・人との関わりを深める授業

１年生「がっこうだいすき」（人権感覚）、「きれいにさいてね」

「いきものとなかよし」、「もうすぐ２ねんせい」

２年生「ぐんぐんそだてわたしの野さい」「どきどきわくわくまちたんけん」（人権感覚）

「生きものなかよし大作せん」、「あしたへジャンプ」

⑧みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・みんなで集団生活しながら見いだした課題を、一人一人が考え、みんなで話し合うことを通して、より良い知恵に高めていく学習に取り組む。

⑨地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・地域の人たちとの交流を大事にし、その中から気付いたことや感じたこと、考えたことを基に、自分がどう行動したらよいのか考えを深め、実践していけるようにする。

１，２年生「生活科見学」（どんぐり拾い）

２年生「菊づくり」

（6）音楽科の授業創造プラン

①音楽科の授業において、以下のことを重視する。

・課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心をもち、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育む。

・音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導を行い、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力を育む

・既存の作品を演奏するだけではなく、自分たちで思いや意図をもち音楽をつくる楽しさを体験させる観点から、創作活動「音楽づくり」を行う。また、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるように鑑賞活動を行い、根拠をもって自分なりに批評することにできるような力を育む。

②我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を実現する。

国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基本として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、他国の音楽文化を尊重する態度などを養う観点から、学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

「主体的な学び」の実現のためには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要である。このことが、イメージや感情を喚起させる要因となった音楽的な特徴を探ったり、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景とのかかわりを考えたりすることの原動力となり、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさを見出すことに関する見通しをもつことにつながる。また、音楽表現を創意工夫して音楽で表現したり音楽のよさや美しさを味わってきたりする過程でもったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情及び人間の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えることが、学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚するとともに、音や音楽を生活や社会に生かそうとする態度を育成することとなる。このことが次の学びにつながっていく。

「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気づいたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が重要である。客観的な根拠を基に他社と交流し、自分なりの考えをもったり音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく過程に学習としての意味がある。

「深い学び」の実現のためには、児童が音や音楽と出合う場面を大切にし、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的にかかわることができるようにすることが重要である。その際、知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける。このことが、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景とのかかわり及び表現方法、音楽様式、伝承方法の多様性などの音楽文化について理解することや、どのように音楽で表すかについて表現意図をもつこと、また楽曲の特徴や演奏の

よさや美しさ、自分や社会にとっての音楽の意味や価値は何かなどの価値判断をすることに関する思考・判断を促し、深めることにつながる。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・「いのちの大切さ」を基本とする学習

・体験学習の重視

・人との関わりを深める授業

・プロの打楽器奏者を招き、身近な木や石、動物の骨などが昔から楽器や対話の道具として使われ、人々の生活の支えや生きる糧として音楽が親しまれ続けてきた歴史を学ぶ。

・音楽を通して、文化の伝承の喜びと尊さを感じ、これからも音楽を通して、いのちの輝きを感じることができるようにする。

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・合奏や合唱の活動を通して、皆で音楽を作り上げることの素晴らしさを実感する授業を行う。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域とつながった学びをしていく。

・音楽の授業の中で学習した成果を、身近な人たちに披露する機会をもつとともに、自分たちができる活動について考えようとすることができる。

(7)図画工作科の授業創造プラン

①図画工作科については、その課題を踏まえ、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形に関心をもって、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むことなどを重視する。

②創造性を育む造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かに関わる態度を育み、生活を美しく豊かにする造形の働きを実感させるような指導を重視する。

③よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうとともに、感じ取る力や思考する力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。

④暮らしの中の造形・我が国や諸外国の親しみのある表現などに関する学習では、作品などのよさや美しさを主体的に味わったり感じたりすることを重視する。

⑤主体的・対話的で深い学びを実現する。

・題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。

・これまでの経験を生かすことのできる学習の充実を図る。

・自分の活動を確かめたり振り返ったりするような場面を設定し、創造的な造形活動における自分の成長やよさ、可能性などに気付き、次の学習につなげられるようにする。

・材料や場所、作品と向き合うなどの自分との対話を大切にしつつ、児童が自分の「見方・考え方」を働かせて、表したいことや用途、材料や場所の特徴、表し方などについて、お互いの活動や作品を見合いながら考えたことを伝え合ったり、感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動を一層重視する。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・全てのものには命があるという気持ちを忘れずに、道具や材料、またでき上がった作品など大切にできる心を育てていく。

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・グループ制作や活動などを通し、友達の考えやアイデアに耳を傾けながら自分らしく創造的な表現ができるようにする。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・地域のポスターコンクールなどに参加し、地域のことを考えたり思ったりすることで自分の思いを表現し、地域へ発信する力を付ける。

（8）家庭科の授業創造プラン

①実践・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育てる。

・児童の実際の生活から出発し、実践的、体験的な活動を通して、基礎的な理解を図るとともに、知識・技能を確実に身に付けられるようにする。また、学習したことを実際の生活に生かすことができるよう、学習過程を工夫していく。

・日常生活の中から、課題を見出すとともに、実践したことを自分で評価したり、改善の方法を考えたりする機会を設けることで、課題解決の力を身に付けさせる。

・実践や活動の振り返りを適切に行うことで、どのような力が付いたかを明確にして、実生活に生かしていく意欲をもたせたり、新たな課題を発見して、改善しようとする態度につなげたりできるようにする。

②生活の営みに関わる見方・考え方を身に付けることができるようにする。

・各単元の導入的な学習の中で、ガイダンスで触れた見方、考え方を想起し、視点を意識することができるようにする。

・技術の習得のみにとらわれることなく、食事や住居、衣服などの役割や働きをとらえ、それらと関連付けながら、食事であれば、「健康」、住居や衣服であれば「快適」「安全」というような視点を常に意識して、学習を進めていくようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

主体的な学び

・何のために学ぶのかという目標を明確にして児童が主体的に学習に取り組めるようにし、見通しをもたせる。

・日常生活の中で課題の発見や解決に取り組ませ、自分の生活を自分で向上させようとする意欲につなげる。

・基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組めるよう、教材・教具の使い方や提示の仕方を工夫し、個に応じた指導を充実させる。

・生活の営みへの興味・関心を喚起できるよう工夫し、生活の中から問題を見いだして課題を設定することで、主体的な課題解決への取組や、実践を振り返って新たな課題を見付けることにつなげていく。

対話的な学び

・課題解決にむけ、児童同士で協働したり、意見を共有することで、一人一人が自分の考えを広げたり、深めたりする活動を設定し、よりよい課題解決につなげることができるようにする。

・家族や身近な人に尋ねたり、意見を求めたりすることにより、児童が自分の生活についての考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

深い学び

・児童が、日常生活の中から問題を見付け出して課題を設定し、その解決に向けて様々な方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するという一連の学習活動の流れを踏まえて学習を進める。

・学習の流れの中で、児童が考えて進める場面と、教師が教える場面の組み立てを明確にすることで、学びの深まりを作り出すことができるようにする。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・日常生活を通して、家族との関りやつながりを振り返る活動を通して、家族の中で育まれてきたことや周囲の人とのつながりを意識することができるようにする。

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・日常の中から問題を見いだして課題設定をし、解決方法を考えていく際に、友達との交流や、家族、地域の人から話を聞くといった活動を取り入れることで、より広い視点をもつことができるようにする。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・自分や家族が地域の人たちとどのように関わっているかを調べたり、話を聞いたりする活動を通して、地域の一員として、よりよい関わりの在り方や、自分にできることについて考えられるようにする。

（9）体育科の授業創造プラン

①運動領域については、幼児教育との円滑な接続を図ること、体力の低下傾向が深刻な問題となっていることや積極的に運動する児童とそうでない児童の二極化への指摘があること、各学年の系統性を図ることなどを踏まえて指導する。

②生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点から、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて指導することができるようにするとともに、低学年、中学年、高学年において、児童に身に付けさせたい具体的な内容を明確にする。その際、指導内容の確実な定着を図ることができるよう、運動の取り上げ方を一層弾力化し、低学年、中学年及び高学年に示されている「体つくり運動」以外の全ての指導内容について、２学年のいずれかの学年で取り上げ指導することもできるようにする。

また、年間を通し、定期的に行う「アクティブタイム」では、遊びの中で多様な動きを経験し、体を動かすことの楽しさを味わえるようにする。

③「体つくり運動」については、一層の充実が必要であることから、全ての学年において発達の段階に応じた指導内容を取り上げ指導する。学習したことを家庭などで生かすことができるよう指導の在り方を改善する。また、「体つくり運動」以外の領域においても、学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができるよう指導の在り方を改善する。

④保健領域については、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視するという観点から、指導内容を改善する。その際、けがの防止としての生活の安全に関する内容について取り上げ、体の発育・発達については、発達の段階を踏まえて指導の在り方を改善する。また、健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、中学校の内容につながる系統性のある指導ができるよう健康に関する内容を明確にし、指導の在り方を改善する。低学年は、運動領域との関係を踏まえ、健康と運動のかかわりなど、運動領域の運動を通して健康の認識がもてるよう指導の在り方を改善する。

⑤主体的・対話的で深い学びを実現する。

・「主体的な学び」は、運動の楽しさや健康の意義などを発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程と捉えられる。各種の運動の特性や魅力に触れたり、自他の健康の保持増進や回復を目指したりするための主体的な学習を重視するものである。

・「対話的な学び」は、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物などを含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程と捉えられる。自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視するものである。

・「深い学び」は、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程と捉えられる。児童の発達の段階に応じて、これらの深い学びの過程を繰り返すことにより、体育科の「見方・考え方」を豊かで確かなものとすることを重視するもの

である。

⑥いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・自己の体力や体について知ることで、自己への理解を深めるとともに他者に対しての理解も深めるとともに、人が尊い命によって生きているものということを実感させる機会を保障する。

・保健領域の中で心と体のつながりについて学ぶ際には、心の変化が心身に影響することを十分理解させ、その時の対処法についても考える機会をもつようにする。また、悩みがある時には、周りの人や友達へ頼っていいという雰囲気を学級の中でも作ることができるようにする。

⑦みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・児童全員が運動の特性としての楽しさや喜びを味わいながら、自らの成長を実感できる授業作りを行うことが重要である。課題解決を図る際にペア学習やグループ学習といった対話的な学習に取り組み、互いに考えを出し合うことで、より質の高い運動を行うことができるような授業を目指していく。また、技能のポイントとしての知識だけでなく、スモールステップの段階を作ることで児童に達成感を味わわせ、運動に対してより積極的に参加するような授業を目指す。

⑧地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・学校内で行った成果を地域行事（陸上競技大会、ロードレース大会、水泳大会、ロープジャンプ大会）の中で発揮することで、学校だけではない地域とのかかわりを行いながら児童の力の高まりを目指す。

・生涯スポーツという観点についても考えさせ、運動に対して「する・見る・支える・知る」といった部分の中でも感じる機会を保障することで、スポーツについて身近なものと考えることができるようにする。

（１０)特別の教科 道徳の授業創造プラン

①資料を提示する工夫

・紙芝居のように提示したり、影絵、人形やペープサートなどを生かして、劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりするなど工夫する。

・写真やビデオなど児童に提示する内容を事前に吟味し、精選していく。

②発問の工夫

・児童の意識の流れを予想し、それに沿った発問や、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問などを心掛ける。

・授業のねらいに強く関わる中心的な発問を考え、それを生かすためにその前後の発問を考えることで、全体を一体的にとらえて授業を構成するようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

・児童の発達の段階などを考慮し、興味や問題意識をもつことができるような身近な資料を取り上げる。

・発問やワークシートを工夫して、学んだことを実際の生活に生かせるようにしていく。

・教材や体験などから考えたこと、感じたことを発表し合ったり、「理解し合い、信頼や友情を育む（友情、信頼）」と「同調圧力に流されない（公正、公平、社会正義）」といった葛藤や衝突が生じる場面について異なる考えに接し、多面的・多角的に考え、議論したりするなどの工夫を行う。

・日頃から何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気を作る。

・児童生徒の考えの根拠を問う発問や、問題場面を自分にあてはめて考えてみることを促す発問などを通じて、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・道徳の授業を通して、いのちの尊さを実感する機会を繰り返しもつようにする。

・「生命尊重」「家族愛」「いじめ防止」「人権感覚」に関わる指導の充実を図る。

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・道徳の授業や道徳授業地区公開講座を通して、多面的、多角的な見方や道徳的価値の理解を、自分自身との関わりの中で深めているかを検証し、意見交換をすることで、自己の考えや価値観をさらに深めていけるようにする。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・道徳の授業で学習したことが、地域の中で実践できるように指導していく。

（１１)外国語活動の授業創造プラン

①外国語学習を通して、他国の言語や文化について体験的に理解を深める。

・外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付かせる。

・日本語と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる。

・ALT の挨拶の中で児童に向けて、調子（pretty good や fine、tired、happy など）や日付や序数表現（January や February などの月の表現や first や second など)、天気（sunny や cloudy、rainy など）を質問し、定型の返答や日付の理解、天気の言い方について理解を深める。

・ALT との交流を主に、異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、外国の文化などに対する理解を深める。

・フォニックスを学習に取り入れることで綴り表現と発音の間にある規則性を理解させる。

②外国語学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

・活動中に学んだ質問や答え方を使って、質問やゲームなどで児童同士が楽しく交流、体験する場面を設定する。

・ALT が全ての会話を英語で行うことで、英単語や質問、答え方や発音の仕方の理解を深める。

・多様な言語活動の中で、コミュニケーションを図ることの大切さを知らせる。

③外国語学習を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。

・ALTや担任が児童に向けて正しい文法や発音を普段から行うことで文法能力を育む。

・質問や答え方をパターン的に授業に取り入れ、場面や状況を理解して活用できる社会言語能力を育む。

・文脈を理解して聞き、活用できる談話能力を育む。

・言い間違えた時には言い直したり、ジェスチャーや絵などの非言語手段を使って補う方略的言語能力を育む。

・１時間の授業スタイルをパターン化し、見通しをもって主体的に授業に取り組めるように工夫する。

④外国語学習を通して、いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・英語を使った会話や肯定的な言葉を取り入れながら児童同士が認め合える活動を取り入れる。

・学習中に、ハイタッチやグッドサインなど、認め合える身体表現で互いを肯定的に評価する活動を行う。

⑤外国語学習を通して、みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・交流場面において、既習事項を生かして互いに意思疎通を図る中で、よりよいコミュニケーション方法を発見させる。

⑥外国語学習を通して、地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・身の回りの物を英語で覚える学習を通して、日常にある物が英語でどのように表現できるか理解を深め、地域の行事や場所、日常を表現する活動を学習に取り入れる。

・学習したことが、地域で活用できるよう、普段からチャンツやパターン化された質問や応答を取り入れる。

（１２)特別活動の授業創造プラン

①児童の自発的、自治的な活動を効果的に展開するとともに、内容相互の関連を図るよう工夫する。

学校の実態、児童の発達段階などについて考慮し、内容を精選したり、重点化を図ったりして全体計画、各内容や各学年の年間指導計画を作成していく。

②よりよい生活を築くために話し合い活動を充実させる。

・生活上の諸問題を話し合いで解決する活動を取り入れる。
・すすんで自分の考えを表現したり、意見の異なる人を説得したりする活動を取り入れる。
・協同的に議論して他者の願いや思いなどを理解し、集団としての意見をまとめたり、よりよい人間関係を構築しながら生活しようとしたりする活動を取り入れる。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

【主体的な学び】

・集団生活をよりよくしていくためには、何に取り組んだらよいのかということを主体的に見出だせるようにする。
・活動を振り返り、良い点や改善点を見付け出すことによって、新たな課題の発見、設定へつなげていく。

【対話的な学び】

・「話し合い」を通して、他者の意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりできるようにする。
・多様な他者と対話しながら協同すること、地域の人との交流の中で考えを広めたり、自己肯定感を高めたりできるようにする。

【深い学び】

課題から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、一連のプロセスの中で、「見方・考え方」を働かせ、意図的・計画的に指導を行う。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・より良い学級、学校にしていくためには、一人一人が大切にされることが必要であることに気付くことができる。
・「いのちの大切さ」を基本とする学習をすすめる。
・体験学習を重視する。
・人との関わりを深める授業の充実を図る。

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

学級会や縦割り班活動などで、児童が見いだした課題について話し合い、より良い解決方法を考えていく活動を大切にする。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

特別活動で学習した知識や考えを、地域の活動で生かすとともに、地域の中で役立てようとする意欲をもつことができるようにする。

（１３)総合的な学習の時間の授業創造プラン

①学習過程を探求的にする。

・【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し、課題意識をもつ。

総合的な学習の時間にあっては、児童が自ら課題を設定し、その課題を解決していくために様々な思考をめぐらせる探求的な学習の過程が非常に重要である。そのために、教師は、児童の発達や興味・関

心を把握し、「なぜだろう。」という疑問を抱かせたり、「もっと知りたい。」と思えるような学習対象との出会わせ方を工夫したりすることが大切である。その際、体験活動を重視し、児童が身の回りの人・もの・ことと直接かかわる活動を保証することで、より深い学びにつながる探求課題を設定できるようにしていく。

・**【情報の収集】必要な情報を収集する。**

探求課題に応じて、課題解決に必要な情報の収集の仕方を、自ら選び、実践できるようにする。インターネットは便利ではあるが、それ以外にも、図鑑や本、新聞、インタビュー、観察や実験、体験活動などから得られる情報も有効であることに気付かせ、様々な情報収集の方法から、適切な方法を選びとる力を付けていく。そのためには、授業のなかで、場面に応じた情報収集の方法に気付かせていくことが大切である。

・**【整理・分析】収集した情報を、整理・分析して思考する。**

収集した情報を、分類・比較して相互に関連付けたり、共通点や相違点を見いだしたりして、整理・分析することで、思考を深めていく力を付ける。そのために、授業のなかで積極的に思考ツールを活用し、集めた情報を可視化し、児童が操作しやすいようにすることが必要である。思考ツールを「比べて考える」「分類して考える」「関連付けて考える」など、思考を具体化する方法を知らせることで、思考力に個人差がある場合でも、個々の児童が思考スキルを活用する力を付けていくことができる。

・**【まとめ・表現】気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。**

学習の過程や、気付き、発見をまとめて、他者に伝える力を付ける。相手に伝えるために適切な方法や形態を選び、伝える力を付けることは、今後の社会で生きていくうえで非常に重要となる。自分の考えをまとめて発表することで、既存の経験や知識と、学習活動により整理・分析された情報とがつながり、個々の児童の学びが深まったり、また新たな課題発見へとつながったりする。この、サイクルを通して学習の質が高め、探求的な学習を実現していく。

②他者と協同して取り組む学習活動にする。

・グループ学習や、異年齢集団による学習など、多様な学習形態を取り入れたり、地域の人材を有効に学習に生かしたりして、興味や関心を継続して学習活動に取り組んでいけるようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

・**【主体的な学び】**

学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって学習に粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげることができるようにする。課題設定においては、自分事として課題を設定できるように、自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくりなどの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れ、主体的な学びが実現できるようにする。振り返りにおいては、自らの学びを価値付け、自己変容を自覚して、次の学びへと向かう「学びに向かう力」を培うために、言語によりまとめたり表現したりする活動を意図的に取り入れる。

振り返りは、授業や単元の終末に行うものとは限らず、学習の途中において、見通したことを確かめ、必要に応じて見通しを立て直すことも考えられ、こうした振り返りを主体的に行う資質・能力を育てることも重要である。

・**【対話的な学び】**

児童同士の対話、児童と教員・地域の人との対話、先哲の考え方などを手掛かりに考えることなどを通じて、自己の考えを広げる対話的な学びを実現していく。対話的な学びのなかには、じっくりと自己の中で対話すること、ＩＣＴ機器などでつないで対話することなども含め、様々な形態が考えられる。多様な他者との対話を通じて課題解決に取り組み、自己の考えを相手に伝える力や、他者から情報を収集する力を付け、思考を広げたり深めたりし、新たな知を創造する力につなげていく。

・【深い学び】

事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追及、課題の解決を行う探求の過程に取り組む力を付ける。実社会・実生活に即した学習課題について探求的に学ぶ中で、各教科などの特質に応じた「見方・考え方」を総合的に働かせることで、個別の知識や技能が質的に高まり、実生活のなかで生きて働く力となるようにする。つまり、学習のなかで身に付けた知識や技能を生かして、未知の状況でも対応していける力としていくことを目指す。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びあふれる明日をつくっていく。

・「いのちの大切さ」を基本とする学習
・体験学習の重視
・人とのかかわりを深める授業
・３年生「かいこを育てよう」「なかだの自然と友達」
・４年生「二分の一成人式を成功させよう」
・５年生「水田学習プロジェクト」
・６年生「自分の将来を見つめる」

⑤みなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

・各教科で身に付けた力を生かし、他者との対話的な学習活動を通じて、よりよい知識や考えを見いだしていく。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

・総合的な学習の時間を通して身に付けた力を、地域の活動の中で生かし、地域の中で役立とうとする意欲をもち、実践していくことができる。

（１４）ＵＤ化の環境・授業づくり

①全ての児童に分かりやすい授業を目指して、授業のＵＤ化を図る。

・場の構造化　……　整理整頓された、分かりやすい環境をつくる。
・時間の構造化　……　授業全体の見通しや時間配分が分かるようにする。
・刺激量の調整　……　教室の前面・黒板には掲示物を貼らない。授業に必要な情報だけを掲示する。
・ルールの明確化　…　学校全体のルールを明確にし、全校で徹底する。
・相互理解の工夫　…　学習の場面で、助け合って課題を解決したり、個々が活躍したりする場面を意図的に取り入れる。
・焦点化　……　授業における学習内容の本質を見極め、ねらいを明確にして、学ぶべき事柄を一点に集中し、授業をシンプルにする。
・展開の構造化　……　何からどのように体験させるか、説明するか、焦点化した内容を伝えるのに最適な展開を精査し、根拠をもって決定する。
・スモールステップ化…課題へのアプローチに個に応じた細やかなステップを設ける。
・視覚化　……　抽象的なものや見えないものを「見える化」し、児童にイメージをもたせる。
・感覚の活用　……　身体を通しての理解(感覚)を授業の中に取り入れる。
・共有化　……　「共同化」や「学び合い」を取り入れ、互いの考えを伝え合ったり確認したりする活動を大切にし、友達の考え方を自分の意見のモデルや下敷きにして、自分の考えを深める。
・スパイラル化　……　一度学んだことを「繰り返す」視点を授業に取り入れる。

②命の大切さを実感しながら理解することができる取組(各教科)

国語　１年「動物の赤ちゃん」

動物の赤ちゃんを比較することによって、生き物の命の力強さについて考える。

国語　２年「スーホーの白い馬」

登場人物の気持ちや情景を考えることを通して、生き物の命について考える。

国語　３年「ちいちゃんのかげおくり」

登場人物の気持ちや情景を考えることを通して、命の大切さについて考える。

国語　４年「ひとつの花」

登場人物の気持ちや情景を考えることを通して、命の大切さについて考える。

国語　４年「ごんぎつね」

登場人物の気持ちや情景を考えることを通して、命の大切さについて考える。

社会　４年「消防の仕事と人々の協力」

消防の仕事を通して、安全や命の大切さを知る。

社会　４年「けいさつの仕事と人々の協力」

けいさつの仕事を通して、安全や命大切さを知る。

理科　３年「こん虫を育てよう」

昆虫を観察したり、体のつくりを調べたりすることを通して、生き物の命について考える。

理科　３年「植物をそだてよう」

植物の実や種子のでき方から、生命のつながりを知る。

理科　５年「人のたんじょう」

人の生命の誕生と母体内での胎児の成長の素晴らしさについて考える。

理科　６年「生命と地球環境」

『食物連鎖』について学習させ、全ての生き物は生き物同士のつながりの中で生きていることを知る。

生活　１年「きれいにさいてね」

植物の世話をする活動を通して、命の大切さについて考える。

生活　１年「いきものとなかよし」

生き物の世話をする活動を通して、命の大切さについて考える。

生活　２年「ぐんぐんそだてわたしの野さい」

植物の世話をする活動を通して、命の大切さについて考える。

生活　２年「生きものなかよし大作せん」

生き物の世話をする活動を通して、命の大切さについて考える。

生活　２年「あしたへジャンプ」

自分自身の成長を振り返ることによって、命の大切さについて考える。